

第3章

分野別計画

1 産業・労働

2 環境・景観

3 教育・文化

4 福祉・保健

5 基盤・安全

6 協働・行政



分野別計画の見方

分野別計画では、個別分野毎における「市を取り巻く状況」や「今後のまちづくりに向けた主要課題」を踏まえ、「目指す姿」を明らかにしたうえで、「目指す姿の実現に向けた取り組みの方向性」及び「施策の概要」を示しています。

第3章

第3章

産業・労働

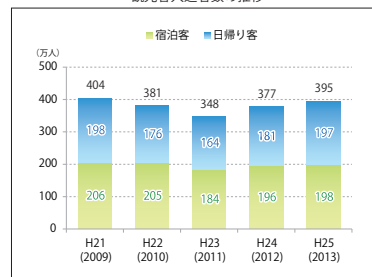
第3章 分野別計画

観光

市を取り巻く状況

- 国内宿泊観光旅行は全国的に減少しており、国民の旅行関連支出も減少傾向となっています。
- 国は、観光立国推進基本計画（平成24（2012）年3月）により、日本の成長を牽引するべくこれから5年間に更なる飛躍をするための方向性として、「観光の裾野の拡大」と「観光の質の向上」を掲げ、国内における旅行消費額を平成28（2016）年までに30兆円にするなどの目標を定めています。
- 県は、岐阜県観光振興プラン（平成25（2013）年3月）により、全国に誇れる資源を最大限に活用しながら、「宿泊滞在型観光」を促進し、観光産業の基幹産業化を図ることとしています。
- 本市における観光客（入込数）は、リーマンショック*や東日本大震災の影響により一旦落ち込んだものの年々回復し、平成25（2013）年に394万5千人と増加していますが、日帰り客に比較し、宿泊客の伸び率は小さくなっています。

観光客入込数の推移



資料：観光課

今後のまちづくりに向けた主要課題

- 観光客のニーズや価値観の多様化に対応したソフト・ハード両面による受入体制の整備・充実をすすめ、観光地「飛騨高山」のブランド力を向上させる必要があります。
- 人口減少社会の本格的な到来や全国的な観光地間競争の激化に対応するため、ターゲットを明確にした誘客宣伝を強化する必要があります。
- 北陸新幹線の開業、道路交通網の整備などによる交通アクセスの向上に伴い、滞在型・通年型の観光地として魅力の向上を図る必要があります。



観光客でにぎわう古い町並

49

市を取り巻く状況

各分野に関連し、本市が置かれている現状、国・県の動向などを記載しています。

今後のまちづくりに向けた主要課題

市を取り巻く状況を受け、今後対処すべき主な課題をまとめ記載しています。



目指す姿

各分野の施策を推進することによって、10年後に本市がどのような状態になっていることを目指すのか記載しています。

目指す姿

- 「飛騨高山」の魅力が伝わり、多くの観光客でにぎわっています。
- 観光客による多くの消費がなされ、観光産業をはじめとした地域産業の活性化が図られています。

目指す姿の実現に向けた取り組みの方向性



■ 垂鞍岳

- ・ 誘客宣伝の推進や観光情報発信の強化などにより地域の魅力が伝わる観光地づくりを推進します。
- ・ 多様な旅行形態の創出やおもてなしの心の醸成などにより訪れる人々の心に響くような滞在型・通年型の観光地づくりを推進します。
- ・ バリアフリー観光*やハブ観光地*化の推進などにより特色ある観光地づくりを推進します。

施策の概要

(1) 地域の魅力が伝わる観光地づくり

- ・ 観光関連団体等との協働などによるターゲットを明確にした誘客宣伝の推進
- ・ 観光ガイドブック・パンフレットの作成やホームページ等の多様な情報媒体の活用などによる観光情報発信の強化
- ・ 観光案内所の機能強化や案内標識の整備、散策マップの作成などによる市内観光案内の充実
- ・ 飛騨高山展の開催や海外旅行博への出展、観光・商工業と農林畜産業の連携などによる国内外への誘客活動の推進
- ・ 飛騨地域観光協議会や飛越能経済観光都市懇談会等との連携などによる広域的な誘客活動の推進

(2) 滞在型・通年型の観光地づくり

- ・ 広大な市域における地域資源の活用や四季を通じた観光イベントの開催などによるニューツーリズム*・山岳観光・教育旅行等の多様な旅行形態の創出
- ・ 観光大学や観光ゼミの開催、郷土教育などによるおもてなしのこころの醸成
- ・ 自然・歴史等を活用した観光関連施設の整備や車両進入制限などによる市街地観光の周遊性向上の推進
- ・ まちづくり会社等と協働したまちなか活性化事業などによる魅力ある観光地づくりの推進
- ・ 観光関連団体への支援などによる運営基盤強化の推進
- ・ 観光業を中心とした産業間の連携強化による市内産業の活性化



■ 新穂高センター

目指す姿の実現に向けた取り組みの方向性

目指す姿を実現するため、どのような施策に取り組んでいくのかその方向性を記載しています。

施策の概要

目指す姿の実現に向けた取り組みの方向性をより具体的にまとめ記載しています。

分野別計画中で、「*」が付いた語句の意味については、資料編の「用語の解説」をご覧ください。



まちづくり指標

各施策を推進することによって、目指す姿にどれくらい近づくことができたかを数値化して把握するため、指標を設定し記載しています。

まちづくり指標及び市民満足度指標については、スペースの都合上、暦表記を簡略化しています。

(例)「平成 25 (2013) 年」→「H25」

第3章 分野別計画



(3) 特色ある観光地づくり



■ 飛騨民俗村

- ・ 誰もが安心して観光できる支援団体の育成などによるバリアフリー観光の推進
- ・ JR高山本線・高速バス路線・地域公共交通路線等の2次交通の強化や着地型ツアーの造成支援などによるハブ観光地化の推進
- ・ 昇龍道*や北陸飛騨3つ星街道*等の広域的な連携などによる魅力のある観光エリア・周遊ルートの形成
- ・ コンベンションやスポーツ大会の開催への支援などによる国内外のMICE*の推進
- ・ ロケツーリズム*の促進などによる新たな観光資源の発掘や観光客層の開拓

第3章

産業・労働

まちづくり指標

指標名	現状値 (H 25)	中間目標 (H 31)	目標 (H 36)
観光客入込者数(年間)	395 万人	452 万人	500 万人
観光客入込者数(日帰り)(年間)	197 万人	214 万人	230 万人
観光客入込者数(宿泊)(年間)	198 万人	238 万人	270 万人
観光客消費額(年間)	686 億円	790 億円	890 億円
再来訪の意向	98.7%	98%	98%

市民満足度指標

指標名	現状値 (H 26)	中間目標 (H 31)	目標 (H 36)
「観光客で市内がにぎわしい、観光産業が活性化している」と感じている市民の割合	74.0%	↗	↗

市民満足度指標

高山市まちづくりアンケート調査により把握する各分野における市民の満足度を記載しています。

※市民満足度の算出方法

$$\text{満足度} = \frac{\text{設問に対し、「感じている」「やや感じている」と回答した市民の数}}{\text{設問に対し、「感じている」「やや感じている」「あまり感じない」「感じていない」と回答した市民の数}}$$